



小池 光選

鉛筆で引いた線なら消せるけど万年筆の線を生きてる

大津市 竹村 哲男

【評】いかにもそう。人生は、やり直しが効かない。鉛筆なら消しゴムがあるけれど、万年筆ならそうはいかない。一步、一線、一線黙って生きていくよりないのである。

幕末の天狗の乱と戦災に二度も焼かれし古里の家

成田市 神郡 一成

【評】幕末の水戸天狗党の反乱に家を焼かれ、先の戦争ではまた焼かれた。なんとこの運命であらうか。なつかしい古里だが、またこの上なく苛酷な古里でもある。

小癪にもアラジンのランプ撫でるごときスモホ操る三歳の孫

東大阪市 池田 健一

【評】最近三歳のこどもでもスモホをいじる。おじいちゃんよりよほど巧みに。まったく小癪なものだが、時代なれば致し方なし。火災報知機が終のちからをふり絞る人のコトバで「電池切れです」

群馬県 真庭 義夫

忽然と失くせし指輪できたりほんにうれしよ今日といふ日は

高石市 出水美智子

その和名瑠璃唐草と知つてより艶めいて見えるネモフィラの青

国立市 長田 千愛

ふるさとを三年ぶりに訪ねしも友なく家なくただ波の音

那珂市 加瀬 利雄

「ええ雨や」亡父の口ぐせ身に染みて我もようやく百姓となる

和歌山県 中山 茂樹

ただ生きるその為だけに生きている金魚が二匹水槽の中

狭山市 奥園 道昭

夫逝きて寂しくないかと問はれば寂しいと言ふ大丈夫と言ふ

さいたま市 大塚 数子

栗木 京子選

「おためし」の人参の種を蒔いてみるお試しだけど土持ち上げる

奈良県 藤本 京子

【評】おまけとしてももらった人参の種なのかもしれない。気軽に蒔いてみたら植物の生命力に目を見張ったのだ。「おためし」だからと侮れない。結句の描写が揺るぎない。

故郷の露を包みし新聞のクロスワードにゆるる母の字

つくば市 横島美登利

【評】故郷からの品々を包み新聞紙を詠んだ歌はよくあるが、ここでは記事でなくクロスワードパズルに記された母の字に着目したのが新鮮。「ゆるる母の字」が印象深い。

はらはらと身のほどけゆく「ほほ力二」をほほ人間の私が食べる

奈良市 吉岡美佐子

【評】力二かまほこの「ほほ力二」は商品名の通りの味わい。のどかな上句に対して下句の「ほほ人間の私」にドキリとする。

脊髄を痛めりハビリする我は箸の持ち方より始めたり

牛久市 藤代 省吾

駅という架空の峠ありにけり上りと下りの電車が行き交う

宮崎市 長友 聖次

残業の明かり次々消えるビル海の深きに鯨は眠る

茂原市 今井 ゆき

新幹線が来るたびはしゃぐ男児たち横目で見ている大人びた女兒

東京都 金谷 裕子

賑わいと対極でいたい連休は藤沢周平『蟬しぐれ』再読

横浜市 杉本 恭子

残業のカップラーメンわれに似て必死に浮かぶなるこのピンク

東京都 稲山 博司

「よか男」ともて囃されて来し君の老いは悲しや口笛までも

東松山市 星山 文子

俵 万智選

引つ越したびに育ての母親が増えるみたいにどの町もすき

大阪府 中村 杏

【評】住む町もまた、自分を育ててくれる。引つ越したびに育ての母親が増えるみたいになと思う。「町」の中には、人々をはじめ、自然環境や歴史なども含まれるだろう。

本人と本人確認書類とでやっとな二人前の本人

東京都 武藤 義哉

【評】現代社会では、やたらと本人確認を求められる場面が多い。本人であることは、ここにいる自分が一番わかっているのに。下の句の苦笑いするような表現に共感した。

理髪屋に夏のシャンプーされるとき開襟シャツの高三になる

東京都 青木 公正

【評】タイムスリップするような感覚が、下の句の具体的な描写で伝わってくる。理髪屋というノスタルジックな語も効いている。

振り返ればもう消えそうな古書店に詩のような雨、雨のような詩

加古川市 石村 まい

雨降れば魚の匂ひがしてきたりナボリの市場をうろつくやうな

市原市 井原 茂明

蝶の背に乗る子どもが下に見る戦ふことをやめたあの星

東京都 福島 隆史

孫を撮るような素振りですま水かざし少しやつれた娘見つめる

埼玉県 谷ヶ崎 均

ポインントをたっぷり貯めて使い切る時のソーダのような爽快

つくば市 岩瀬 悦子

亡き妻の植えし水仙増えすぎて思い出されて少し引き抜く

四街道市 村山 勝彦

立て膝に老眼鏡で新聞のクロスワードす日曜の妻

千葉市 千秋庵

黒瀬 珂瀾選

桃色のマニキュアの指かざし見るみどりの五月米寿となりぬ

狭山市 牧口ケイ子

【評】あざやかな新緑を背景にして、桃色の爪の色が映えますね。季節の輝きとおしゃれの喜びがともに描かれて爽快です。歳老いてこそ生を楽しむ、洒脱な心があります。

棒切れでスカンポの首落としてつっつ少年にあり漢たる不安

静岡市 小川 健治

【評】春に伸びるすかんぽの新芽でしょう。何に焦っているのか、少年は棒を振り回す。こういう理由のない不安も若さの特徴。この少年は、作者の自画像かもしれません。

ただでさえよく燃えそうな市役所にダンボール製のパーティーション

伊豆市 恩田さやか

【評】目に見えて経費削減されると、いざというときに大丈夫かと不安になる。大勢の人が来る役所ではトラブルも起きがちです。耕運機の後を鳥が従ってゆく米の高値を憂えること

恋のないことは弱さと責められてトイレトペーパーから回る

高崎市 くらたか湖春

まだ生きてあるとはかりにカー押して夕餉のパナ買ひゆく翁

小美玉市 松山 光

手ぶらでは来た事がない暮敵に今日も手加減して打つ我は

所沢市 若山 巖

かき氷に「ふわふわ」という語のありてあの夏の粗野な水食べたし

大和郡山市 大津 穂波

サチライト張りめぐらせ幸せのタネを見つけて生きるびてゆく

東京都 内田 恵子

一坪の土地さえ持たぬこの吾に数多のツボが足裏にあり

海田市 樋口 勉

次回は10日(火)
掲載予定

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。
◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから 右の影絵はさやえんどう